

実践原価企画

小川 正樹 編著

304頁 定価2,800円(税別)
税務経理協会刊



原価企画とは、「中・長期利益計画で必要とされる目標利益を所与の市場環境条件の中で達成するために、顧客の要求を満たす品質・機能・価格・納期・環境などの目標ならびに目標原価(目標投資額を含む)を決定し、対象製品の要求品質・納期・環境負荷低減を満たしながら、企画段階から始まるライフサイクルの全活動にわたって、目標を達成するように取り計らう全社的活動」である(八頁)。「この定義のなかに著者が考える原価企画とはいかなるものか、を知ることができる。」

この本の副題として、「環境経営に対応した理想ライフサイクルコストの追求」という文言がつけられている。前記の記述から、この本が、これまでの原価企画論から抜け出して、環境が企業の競争優位性を決定する新しい時代に適用する原価企画

論であることを知る。

この本は、大きく分けて、第一部(第一章～第五章)と第二部(第六章～第八章)から構成されている。

第一部 原価企画とは何か。それは、環境経営時代の原価企画のあるべき姿を追求することである。

第二部 原価企画の実践活動。すなわち、コストダウン技術の適用方法と原価企画活動のITサポートシステム活用方法の事例を説明している。

この本の大きな特徴は、環境経営新時代における原価低減の実践的具體策を述べていることである。第三章、第四章の原価企画の手順では、最低限クリアしなければならない目標原価の設定方法、技術的に可能な方法、具体的に有効なコストダウン手法、すなわち、QFD(品質機能展開)、VE(価値工学)、TRIZ(発明的問題解決の理論)、品質工学、I

(E)インダストリアル・エンジニアリング)などが説明されている。

第一部の終章である第五章では、原価企画活動を成功させるための条件が述べられている。

原価情報システムが不可欠であり、マネジメントシステムとして、国際標準であるISO14000シリーズの組み込みが望まれる、と著者は述べている。

ライフサイクルコストを対象とする原価企画活動成功の条件のひとつは、経営トップの支援と組織力の強化にある、という著者の見解に賛同する。

オフライン設計のコストダウン技術適用事例として、健康機器製工(ルゴバイク)の開発部におけるコストダウン方法が詳述されている(第六章)。

統計的データ解析に見る負荷発生装置の改善策が示されている。

第七章では、オンライン設計のコストダウン技術適用事例、第八章では、原価企画業務へのIT(情報技術)活用事例が紹介されている。本田は、これまでの製造方式を一新し、新しいコンセプトによる生産方式を考案した、という。その方式は図表で表示されている(一五四頁)。

スピード経営の今日、改善から計画の時代である二十一世紀型コストダウンの手法がこの本には満載である。技術解説書であるので、経営人には、入りにくい面もあると思われるが、実践に役立つ本であるので、時間をかけても読み終える努力をすれば、コストダウン手法の新しい知識を身につけることができよう。

宮崎 利江(経理ライター)